



市長記者会見資料
平成 24 年 6 月 1 日
産業振興部 産業企画課
(財)高岡地域地場産業センター

高岡地域伝統工芸品の JR 九州(SONIC883 系)車両内展示について ～ 高岡地域伝統工芸情報発信事業 ～

本市では、地場産業の振興を図るため、全国に向けて地場産品の情報発信に努めており、この度、その一環として、高岡地域地場産業センター、富山大学芸術文化学部と連携し、JR 九州の協力を得て、同社の人気車両である SONIC 8 8 3 系の車両内展示ブースに、高岡地域の伝統工芸品を紹介展示いたします。

運行区間は、博多～小倉～別府温泉・湯布院～大分など九州の有名観光地を繋いでおり、多くの外国人旅行客も利用していることから、国内外への情報発信につながるものと期待しています。

1 事業概要

- (1)使用車両 九州旅客鉄道株式会社(JR 九州)
SONIC 8 8 3 系車両(博多～大分間) 7 編成の **28** ブースを使用
・同車は全 8 編成で、現在点検中の一編成を除き展示
- (2)展示点数 **63 点**(高岡銅器 41 点、高岡漆器 12 点、越中和紙 5 点、庄川挽物 3 点、井波彫刻 2 点)
- (3)展示期間 **平成 24 年 6 月 1 日～平成 24 年 8 月 31 日**
(5 月 30 日から一部車両で展示)
- (4)展示構成 富山県内の 5 つの伝統工芸品産地の特徴がよくわかるものと、伝統工芸品をベースとしたモダンなもの双方の魅力を楽しんでいただける展示構成。
・産業としてのイメージも持っていただけるよう、各展示ブース内の展示品背面に、鋳込み作業など制作工程等の写真を配置
・展示ブース壁面には産地説明パネル設置し、各産地の概要を紹介(Q R コード付)
- (5)実施主体 (財)高岡地域地場産業センター【高岡市からの事業補助で実施】

2 参考:展示にいたる経緯

北陸新幹線に導入される新型車両の開発に際し、内装材などに地場産品の活用を JR 西日本へ提案するため、平成 22 年度に高岡市と富山大学芸術文化学部が研究チームを編成し、大学委託事業として提案書を作成。(平成 23 年 3 月に市長から JR 西日本に提出済み)

研究チームでは、「つばめ新 800 系」で先行的な取組をしている JR 九州の関係者(デザイナー等)と意見交換会、N700 系(JR 西日本、九州が共同開発)の試乗調査なども実施した。

こうした活動がご縁となり、本年 1 月に JR 九州運輸部から、研究チームのリーダーであった富大芸文「矢口忠憲・准教授」への打診を受け、氏のご尽力により SONIC 8 8 3 系への展示が実現することとなったもの。

担当 (財)高岡地域地場産業センター
東保専務理事、秦
0766-25-8283
産業振興部 産業企画課
水上 0766-20-1290

参 考

SONIC883 系について

九州の玄関口博多と湯の町大分を約2時間半で結ぶ特急列車(1995年開業)。デザイナー・水戸岡鋭治氏のプロデュースによる斬新な車体・内装を備え、開業当时には鉄道業界にとどまらず、インテリア、ファッション等の関連業界で広く話題となった。95年にグッドデザイン賞、96年にブルーリボン賞、ブルネル賞を受賞している。大分駅では始発4:45(7:16博多着)、終電21:44(23:59博多着)、6~20時台は1時間に2本運行。



車両外観



展示ブース

高岡地域地場産品のブース展示風景





展示品の例



蠟型花器たこあげ

aquarium ダンベル

菓子器 鯛

蒔絵のアイフォンカバー



木彫作品「昇鯉」



庄川挽物「器」



越中和紙「おわらおどり」